

クウェート科学研究所 KISR との「クウェート重質油の効果的な水素化 処理方法に関する共同事業」 ― 協定書署名式を開催

JCCP は、クウェート科学研究所 (KISR: Kuwait Institute for Scientific Research) と、平成26年9月30日(火)、KISR 本社にて、「クウェート重質油の効果的な水素化処理方法に関する共同事業」に関して、在クウェート日本国大使館 辻原俊博大使及びクウェート国営石油精製会社(KNPC: Kuwait National Petroleum Company)のアーマド・アル・ジャマズ副社長ご列席の下、KISR ナジ・アル・ムタイリ総裁および JCCP 平岡英治参与(特命担当)による協定書(MOA)署名式を開催致しました。

署名式には日本側の参加組織である九州環境管理協会と九州大学を代表して、九州環境管理協会の持田勲理事長が出席され、KISR、KNPC 関係者等、約40名が参加しました。この署名式の模様は当日取材した「アラブ・タイムス・クウェート版」に大々的に報じられました(添付写真)。

クウェートでは産出する原油の重質化に伴い KNPC の既存製油所の運転効率、特に巨大な処理能力を有する残油直接脱硫装置の稼働率向上は大きな課題となっており、KNPC 及び KISR より本件に関する技術・研究支援の要請がありました。

九州大学は、22～24年度の KISR との JCCP 共同事業「重質原油の軽油・残油の構造解析と水素化処理への効果(クウェート)」を実施し、この事業を通して、KNPC 及び KISR から深い信頼を獲得し、また九州環境管理協会は最新分析技術を駆使し、石油分子化学の応用を展開してきた実績があります。

本事業では KNPC と KISR の協力の下、これまで培ってきた九州環境管理協会及び九州大学の重質油の高度分析・解析技術を用い、クウェート重質油の水素化処理に関し、共同して課題解決を図ることとなりました。

本事業が KNPC の残油直接脱硫装置の稼働率向上の一助となり、さらにはクウェートと日本の友好関係強化に貢献することを期待しております。



(協定書へのサイン光景：前列左から 2 人目が辻原大使、3 人目が平岡参与、4 人目がムタイリ総裁)